

## 大学入試改革

## 中教審が答申

## 小3から英語教育 高校日本史必修化

中央教育審議会は12月22日、大学入試を改革するよう下村文部科学相に答申した。

先月号の内容と重複しますが、その後新たな答申があったので、お伝えします。

① 大学入学希望者学力評価テスト

● 現中1生が対象

● 「合教科型」「総合型」での実施

● 解答方式はマークシートの選択式から、一部を記述式に変更

● 年1回だった試験回数が複数回に

★ 従来の2次試験や個別試験は？

答申は学力だけでなく、高校時代の実績や面接などを通じて判断するように大学側に促しています。しかし、学力試験の禁止までは明記していません。おそらく、大学側も評価テストの活用などはしますが、学力試験がなくなることはないと思います。

試験が複数回になり、チャンスは増えますが、内容は今のセンター試験より難しくなる。

② 高校基礎学力テスト

● 現小6生が対象

● AO・推薦入試に活用

● 高校の学習に合わせて教科ごとの出題

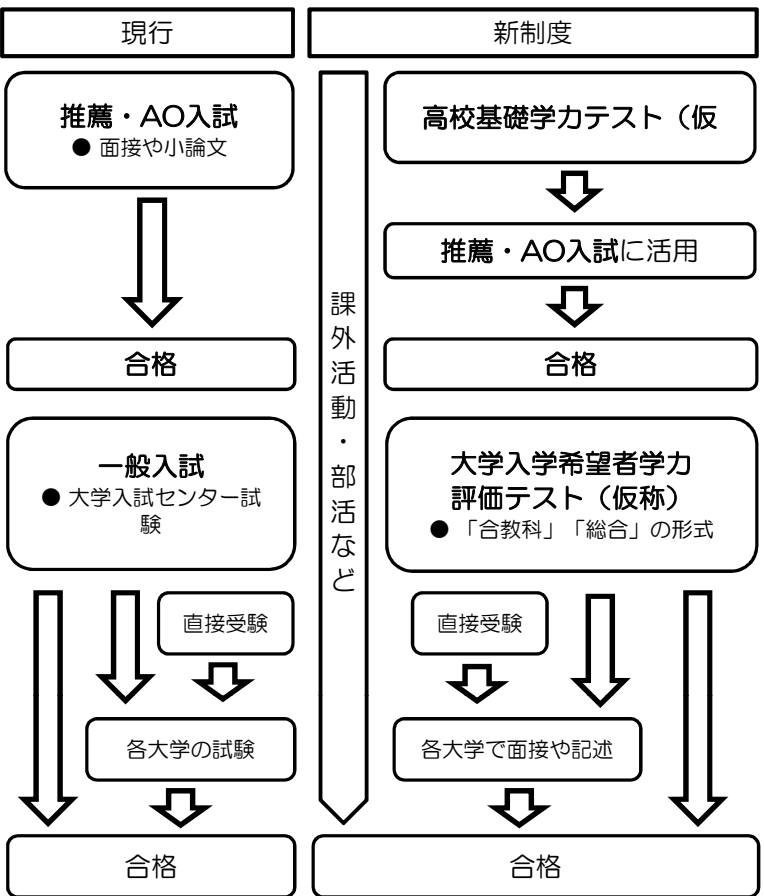
● 高2から複数回実施

この基礎学力テストによって、今までAOや推薦入試で学力検査なしで大学に入学できていたのができなくなります。

左の図のように、現行の制度と新制度を対比してみると、①と②の役割がよくわかると思います。

● 複数回実施でチャンスは増えたが、受験への対策を早くしなければならぬ。高3まで部活に励み、夏から「さあ、受験だ」というわけにはいなくなるでしょう。

● 学力試験は絶対。①の評価テストは科目の概念がなくなるため、現在のセンター試験より難しくなる。また、2次試験も内容は変わると思われるが、なくなるわけではないので、その対策も必要になる。



● 現在、小学校では5年生から英語に触れる機会を設けていますが、今回の諮問では、これを小学3年から行い、5年から正式教科にする流れになっています。これにより、今後はますます早期の英語対策が必要になっていきます。

● また小学生段階で「読む、書く、聞く、話す」の4技能育成が重要とし、「身近なことで気持ちを伝える」を達成目標としています。そして中学生では「英語による授業を基本に、身近な話題で互いの考えを伝え合う」としており、小学生段階で英語につまづいてしまうと中学以降の英語の授業に全くついていけない英語が出てくるのが考えられます。

● 現状で小学校校での英語教員の不足などの問題点がある中、どのような対応をするのかなど不透明です。

● 高校では自国への理解を深めるため、現在は選択科目の日本史必修化を検討。世界史と合わせた新教科創設も含め地理歴史教育を見直す。また、国民投票年齢が満18歳以上になることを踏まえ、社会の一員として自立した力を身に付けるため新たな教科を導入することや、科学や数学で才能ある生徒を伸ばす新科目の創設、職業教育の強化なども諮問した。

● 高校教育では「大学入試希望者学力評価テスト」が総合型になるため、科目自体の見直しも進んでいます。すでに「日本史」「世界史」や「数学十理科」のような動きが出ています。今後、私たち塾側もこのような科目の指導ができる講師育成を進めていきたいと思っています。